

## 為替週間展望 = ドル円は軟調な流れが継続か

[2月6日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		1月30日～2月3日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	129.79	130.57(30)	128.09(2)	128.55	-1.33
ユーロ・ドル	1.0856	1.1033(2)	1.0802(31)	1.0898	+0.0030

  

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,509.46	+126.90	日本10年債利回り	0.488	-0.003
ダウ平均株価	34,053.94	+75.86	米10年債利回り	3.393	-0.111

<来週の主要経済統計等>

- 6日 独12月製造業受注指数  
ユーロ圏12月小売売上高指数  
カナダ1月Ivey購買部協会指数
- 7日 日本12月勤労者世帯家計調査  
豪12月貿易収支  
豪中銀(RBA)政策金利  
日本12月景気動向指数速報値  
スイス1月雇用統計  
独12月鉱工業生産指数  
カナダ12月貿易収支  
米12月貿易収支  
バイデン米大統領が一般教書演説  
パウエルFRB議長講演
- 8日 日本12月経常収支
- 9日 米新規失業保険申請件数  
欧州連合(EU)首脳会議の特別会合(10日まで)
- 10日 中国1月消費者物価指数、中国1月生産者物価指数  
英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支  
英第4四半期GDP速報値  
カナダ1月雇用統計  
独12月経常収支  
米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値  
米1月財政収支

【前回のレビュー】ドルは米経済指標に左右されながらも、FRBの利上げペース減速見通しが上値を抑えたとみられる。円は日銀の政策修正の思惑などから、円買いに傾きやすい展開が見込まれる。こうした中、ドル円は上値の重い展開が続くとした。

【FOMCは0.25%の利上げ】

1月31日から2月1日の米連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利の0.25%の引き上げを決めた。フェデラルファンド・レートの誘導目標は4.50～4.75%となる。利上げ幅は前回の0.50%から0.25%に縮小した。利上げ幅は市場予想の通りとなった。

声明文では、「利上げ継続が適切になる」との文言は残した。「インフレは幾分和らいだが依然高い水準にある」「データは消費、設備投資とも緩やかな伸びを示唆している」といったことが示された。

パウエル議長は記者会見で、「金融引き締めが経済に影響を与える時間差と考えると、0.25%の利上げを決定した」「前回から続けて、昨年行った急速な利上げペースから鈍化した」「インフレに勝利したと判断するのは時期尚早だ」「少なくともあと2回の利上げが必要となる。利上げ停止後に再開する選択肢は検討していない」と述べた。

また、労働市場は非常に強いと何度か述べており、賃金インフレへの警戒感を示した。「デysinフレが始まった」との認識も示しており、2回の利上げでいったん利上げが打ち止めになるとの見方が強まった。

ターミナルレート（最終到達金利）は5.00-5.25%となっており、パウエル議長が「あと2回の利上げ」というように3月と5月のFOMCで0.25%ずつ利上げて、利上げ打ち止めになるとみられる。

なお、市場では利上げの着地点が見えてきたことで、パウエル議長の記者会見後はドル売りの動きに傾いている。市場の予想ほどはタカ派的ではなかったとの見方が広がっているようだ。こうした中、ドル円は129円台での振幅後に128円台前半まで下落している。

インフレ率の低下や利上げ打ち止め時期が視野に入ってきたことで、市場では利上げ休止後、年後半にも利下げに動くとの観測も広がっている。今後は経済指標に左右されやすい動きとなりそうだが、ドル円は軟調な流れが継続するとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、125.00~131.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、7日に日本12月勤労者世帯家計調査、日本12月景気動向指数速報値、米12月貿易収支、8日に日本12月経常収支、9日に米新規失業保険申請件数、10日に米2月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値、米1月財政収支などがある。

#### 【ユーロドルはもみ合いで推移か】

2日の欧州中央銀行（ECB）理事会では市場予想の通り、0.50%の利上げを決定した。3月にも0.50%の追加利上げの方針を示した。理事会後の記者会見でラガルド総裁は、「3月の会合でも0.50%の利上げに動く」との意向を示した。ただ、「それ以降については金融政策の方向性を見極める」として、利上げに関して明言を避けた。

ラガルド総裁の記者会見を受けて、3月に追加利上げした後、利上げペースの減速や休止の可能性が出てきたことで、ユーロ売りの動きにつながった。ユーロ円は2日の東京時間に1.1000ドル超で推移していたものの、その後は売りに押されて1.08台後半まで下落している。

ユーロドルは高値からは値を削って、上げ一服となっている。ECBの利上げ停止の可能性が視野に入ってきたものの、ドルの軟調な流れは継続するとみられる。こうした中、ユーロドルは1.0900ドルを上下に振幅する展開が見込まれる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750~1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、6日に独12月製造業受注指数、ユーロ圏12月小売売上高指数、カナダ1月IVEY購買部協会指数、7日に豪12月貿易収支、豪中銀（RBA）政策金利、スイス1月雇用統計、独12月鉱工業生産指数、カナダ12月貿易収支、10日に中国1月消費者物価指数、中国1月生産者物価指数、英12月鉱工業生産指数、英12月製造業生産指数、英12月貿易収支、英第4四半期GDP速報値、カナダ1月雇用統計、独12月経常収支などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

～ノルマナフ～

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。